カモシカ対応運動を展開するにあたっての作業手順と留意点

ステップ１	まずは、一人ひとりが危険（カモシカ事例）を考え（予測し）てみよう！
ステップ２	次に、それぞれが、それぞれの立場で、危険を避け、災害に結びつかせないために出来ること（カモシカ対応）を考えてみよう！
ステップ３	ステップ１で考えた危険（リスク）が実際に災害に結びつくとした場合のリスクの見積もり（重篤度・発生可能性 ⇒ 優先度）をしてみよう！
ステップ４	出来ること、優先すべきことから具体的に実践しよう！

＜カモシカ手順（例）と留意点＞

① できるだけ多くのカモシカ事例及びその対応について、事業主（工場長、所長など）または安全管理者（安全スタッフ）は自ら考えるほか、各労働者一人ひとりに考えさせるようにする。

② それらを「実践様式」に記入する。

③ 各人に考えた事例とその対応を集約する。

④ 集約した事例の中から、会社（工場、営業所）として取り上げる事例を１～３つ、決定する。

⑤ ④で取り上げることを決定したカモシカ事例を、「実践様式」＜統合 Ver.＞を活用するなどして、事業主（工場長、所長）、安全管理者（安全スタッフ）、作業員（ドライバー、事務員）が、それぞれの立場で、実践様式例（リーフレット裏面）を参考にして、各欄に、カモシカ対応を記入する。

⑥ ⑤で作成したカモシカ事例・カモシカ対応を全従業員に周知し、徹底を図る。

◎重要なことは、誰かが考えればいいのではなく、職場で働く一人ひとりが考え、実践することです。

事業主（工場長、所長、安全担当者）は、
誰かを指名して、『何か考えろ！』ではなく、
全従業員に、ヒヤリ・ハット体験（の集約→共有→周知）や、

もしかしたら、死角から子どもが飛び出してきて、
もしかしたら、前方の車が急ブレーキをかけてきて、
もしかしたら、作業床（荷台）が水（油）で濡れていて、
もしかしたら、安全装置が取り外されていて、
もしかしたら、止まったと思った機械が止まっていなくて、
もしかしたら、ゴミが落ちて回転する機械に　反射的に手を出して
もしかしたら、うっかりして、起動スイッチに手（足）を出して、

ケガするかもしれない事例のほか、「カモシカ事例」（別に示したファイル）などを参照して、取り上げたり、考えるヒントを与えたりするなどして考えさせ、そのために「何をすべきか」（どう注意して・あらかじめ荷台上を確認して・指差し呼称確認して…など）、「何ができるか」について、一人ひとりに考えさせ、考えさせた事例を取り上げ、働く全員で取り組むことで、災害防止への気運（安全意識）を高めるようにして下さい。

鹿沼労働基準監督署（電話　0289-64-3215）